

2025年の地域包括ケアの姿 (案)

国においては、団塊の世代が75歳以上の高齢者となる2025年を見据え、ニーズに応じた住宅に居住することができ、生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスを日常生活の場において適切に利用することができる「地域包括ケアシステムの構築」が提唱されています。

神戸市では、高齢者を取り巻く現状や課題、地域特性を踏まえ、2025年までに以下の地域包括ケアの姿を目指します。

- ◇「あらゆる人が社会から排除されずに居場所と役割を得て生活できる包摂的な地域社会（ソーシャル・インクルージョン）」が実現している。
- ◇「市民が地域福祉を担う主体として、ともに助け合いながら、市、事業者と協働して地域社会を支えている。
- ◇高齢者が地域社会の中で積極的な役割を担い、様々な世代と交流してつながりを持ち、介護が必要になっても生活をともに楽しみながら地域活動に取り組んでいる。
- ◇重層的な見守り体制の構築による高齢者の安否確認や、権利擁護システムの強化や成年後見制度の活用による高齢者の人権擁護の充実、ユニバーサルデザインのまちづくりの推進を図るなど、神戸市の「市民福祉」の理念に即して高齢者が安全・安心な生活を続けられる。
- ◇多様なサービスが準備され、また高齢者がICT（情報通信技術）も活用しながらそれらの情報を容易に入手できるとともに、身近なところで相談でき、高齢者自身が福祉サービスを利用するにあたって選択の自由が保障されている。
- ◇あんしんすこやかセンターが神戸市社会福祉協議会と連携のもと、地域福祉の拠点となり、高齢者等の個別性を尊重しながら、地域の多様な機関、事業者、NPO等が必要に応じて関わり、地域福祉の課題の解決に向けて対応していくワンストップサービス機能が構築されている。
- ◇市民と関係機関、行政が一体となった健康寿命の延伸の取り組みにより、人生の最後まで、自分らしく生活を楽しみながら暮らすことができる。